

天文教育

2022

1

*Publications of the Japanese Society for Education and Popularization of Astronomy
(PJSEPA)*



＜特集 1＞中部支部会～今、学校教育・理科天文分野で起きている・起き
つつある教育変革～

＜特集 2＞関東支部会～夜が長くなりました 観測・普及方法 大募集！～

＜投稿＞歪められたプロトマイオス像

＜報告＞2021 年度若手奨励賞選考について

＜意見募集＞代議員・役員選挙の電子投票化について

一般社団法人 日本天文教育普及研究会

本誌原稿募集のお知らせ

編集部では下記の原稿を募集しております。会員の皆様からの活発なご投稿をお待ちしております。

なお原稿の投稿は、編集部から依頼した場合を除き、原則として当会会員の方に限らせていただきます（共同執筆者に会員を含む場合はこの限りではありませんが、投稿は会員の方からお願ひいたします）。

1. **原著論文**：天文教育・普及について、オリジナル性があり考察が優れ、学術論文として主な内容が印刷発表されていないもの。表題、アブストラクト（要旨）には英文も付けてください（英文は審査通過後に追加も可）。
 2. **解説記事**：天文学や天文教育・普及に関する解説・紹介記事や、さまざまな天文教育や社会教育などの実践記事。分量は刷り上がりで6~10ページ程度。
 3. **各種の報告など**：支部会やワーキンググループの活動報告、各種のイベントの報告など。分量は刷り上がりで2~4ページ程度。
 4. **書評**：天文学や天文教育・普及に関する書籍の紹介。分量は刷り上がりで1~2ページ程度。
 5. **会員の声**：会員の皆様からのご意見・ご感想など。分量は刷り上がりで1ページ程度。
 6. **表紙の写真**：タイトルと400字以内の「表紙の言葉」とともにご投稿ください（写真のみでも構いません）。
 7. **情報コーナー（各種会合・イベントの告知など）**：支部会やワーキンググループの会合、また天文学に関する各種の会合・イベントなどの情報。分量は任意ですが、スペースの関係で適宜省略させていただく場合があります。会合・イベントの開催日と会誌の発行日（奇数月下旬）にご留意ください。
- ・**締め切り**：1は随時受け付け、2~7は偶数月（発行の前月）15日です。投稿先は post@tenkyo.net です。
- ・本誌に掲載された記事（上記1~6および7の一部）は、当会Webサイトにてpdfファイルの形で一般に公開いたします。インターネットでの公開に差し障りのある場合は、ご投稿の際にその旨ご連絡ください。
- ・広告掲載を希望される方は事務局 (jimu@tenkyo.net) までお申込みください。掲載料はB5判1ページ ¥20,000-、半ページ ¥12,000-、1/4ページ ¥7,000-、チラシの折り込み ¥20,000-です。

【編集委員会からのお願い】

『天文教育』の編集は、すべて会員からなる編集委員によって行なわれています。ご投稿の際には以下の点についてご協力いただけますよう宜しくお願ひいたします。

- ・原稿の投稿は、原則として Microsoft Word ファイルでお願いします。
- ・執筆用のテンプレートが当会 Web サイト (<https://tenkyo.net/>) からダウンロードできます。できるだけこのテンプレートをご利用くださいようお願ひします。執筆上の留意点なども記しています。
- ・充分に推敲を重ねた完全原稿でご提出ください。分量や内容によっては手直しいただく場合もあります。
- ・提出データは必ず各自でバックアップしておいてください。
- ・Word 以外に一太郎ファイルやテキストファイルでも受け付けております。
- ・原稿のご投稿やご質問は電子メールにて、下記のアドレスへお願ひいたします。

投稿先・質問先 メールアドレス：post@tenkyo.net

表紙の言葉

天空の光と地上の光

2022年1月1日 18h02m, Canon EOS 5DMkIV, Nikon AI AF NIKKOR 180mm f/2.8D ED (f=180mm, F=2.8)、撮影地：長野市鬼無里 撮影・解説：大西浩次

2021年の最初に発見されたレナード彗星（C/2021 A1 Leonard）が年末年始の空で、変化にとんだ光景を見てくれた。発見当初より、地球に最接近する2021年12月12日ごろには5等級になるという事で注目されていた。レナード彗星は、地球への最接近前には北半球で見やすい明け方の北東の空で見え、最接近後は、夕方の南西の空に移り、南半球で見やすい条件に変わる。最初の撮影は11月下旬であったが予想より暗い7等級、その後、12月3日にはりょうけん座の球状星団M3と並ぶ様子も見られ。最接近後の夕暮れの空での様子を楽しみにしていた。このレナード彗星の面白み

は、まさに地球接近後であった。12月15日、20日、24日とアウトバーストを起こし、1等級以上も増光し、彗星の明るさが2~3等級となった。さらに、南半球では、クリスマス前後には60度を超える長いイオンテールが撮影され、彗星と太陽風との相互作用によるイオンテールのノットなど興味深い様子が観測されていた。日本からは、残照が残る空の中で、淡い尾をほとんど見る事ができなかったが、近日点通過の2022年1月3日の直前、有終の美ともいえる彗星らしい姿を捉えることができた。写真は、北アルプス槍ヶ岳の上に輝くレナード彗星だ。槍ヶ岳の左、大天井岳から燕岳にかけての稜線の上に小さな光が見えている。燕山荘だ。人の作る小さな光と天空の光を対比しながら、再び太陽系に戻ることのない彗星に「さよなら」を言いながら撮影した。